

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

防災教育キャンプ

熊本県教育委員会

【事業のポイント】

- 小学校体育館を避難所に見立てた3日間
- ライフライン寸断から復旧までを体験
- 地域住民や地域行政との連携協力
- 地域の実態に応じた災害設定
- 直接的参加と間接的参加者の学び



1. 企画

(1) 事業実施の背景

熊本県では、平成24年度文部科学省委託事業として、県立青少年の家を会場とした2泊3日の「防災教育キャンプ」を2施設で行った。体育館で3日間、食事、電気、水などの制限を受けながら共同生活するといった避難所の疑似体験を行うとともに、起震車による震度7の体験、煙発生装置による煙体験、災害救助やケガの応急処置の訓練など、様々な災害に関する体験活動を行った。この中で、スタッフとして参加した県立青少年の家職員が防災教育に関する多くの指導のノウハウを得ることができた。

平成25年度は、その成果を県内各地に普及していくことをねらいとして学校や地域に県立青少年の家の職員が出向いて実施する出前型の「防災教育キャンプ」を開催した。この中で、県立青少年の家職員は、ダンボールを使っての居住スペース作り、飯ごう炊飯、夜間避難訓練などの活動を指導するとともに、体育館での避難所疑似体験のために、ため水を利用しての洗面や炊事、トイレ使用等の生活体験の活動支援を行った。消防署や日赤熊本県支部と連携し、消火訓練、救助訓練、起震車体験といった体験的な防災・減災の学習を行った。更に、平成24年7月の九州北部豪雨で本県は大きな被害を受けた本県阿蘇地域で救助等に関わった方を講師に招き、災害の現状を学んだ。

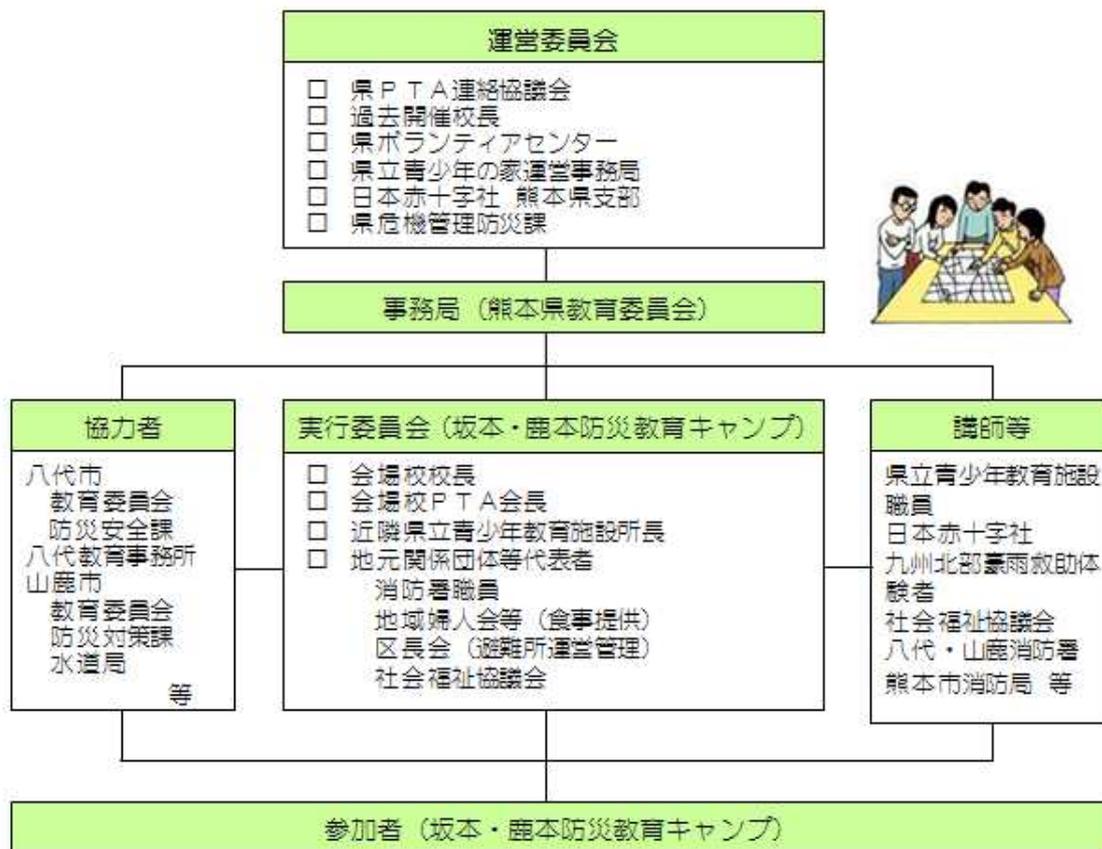
(2) ねらい

この2年間でモデル事業として防災教育に関し一定の成果を得ることができた。

平成26年度は、県内一斉に公募（市町村教育委員会を対象）を行い、開催地を決定し、当該地域に応じた防災プログラムを計画し、地域防災力の向上のきっかけとなるように学校と地域住民及び関係機関との連携を深める事業を展開する。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2) 開催実績

月 日	内 容
5月	会場校、事業日程の調整及び運営体制の検討
6月 2日	坂本防災教育キャンプ事前説明会 (坂本中学校)
6月 4日	鹿本防災教育キャンプ事前説明会 (鹿本中学校)
6月24日	第1回運営委員会 (熊本県庁)
6月27日	坂本防災教育キャンプ第1回実行委員会 (坂本中学校)
7月 1日	鹿本防災教育キャンプ第1回実行委員会 (鹿本中学校)
7月16日	坂本防災教育キャンプ第2回実行委員会 (坂本中学校)
7月24日	鹿本防災教育キャンプ第2回実行委員会 (鹿本中学校)
8月1日～3日	坂本防災教育キャンプ (坂本中学校)
8月8日～9日	鹿本防災教育キャンプ (鹿本中学校)
12月17日	第2回運営委員会 (熊本県庁)
1月23日	鹿本防災教育フォーラム (鹿本中学校)
1月29日	坂本防災教育フォーラム (坂本中学校)
3月	報告書作成配付による普及・啓発

3. 防災キャンプ実施概要 (詳細は別紙資料参照)

(1) 坂本防災教育キャンプ 平成26年8月1日 (金)～3日 (日)

① 8月1日 (金)

- 活動1 講義「九州北部豪雨」
九州北部号の際に実際に救助体験をした講師から災害の様子を学んだ。
- 活動2 非常持ち出し袋紹介
持参した非常食や防災用品について意見交換を行った。
- 活動3 夕食 (持参した非常食)
持参した非常食を食した。

② 8月2日 (土)

- 活動4 朝食 (持参した非常食)
持参した非常食を食した。
- 活動5 昼食づくり

- 救援物資が届かない状況下で近隣家屋から調達し、さらに長材のみで昼食づくりを行なった。
- 活動6 昼食
- 活動7 防災教室①
- 活動8 防災教室②
煙体験及び運搬術（消防）、豪雨体験（施設）、アイマスク体験（社会福祉協議会）を体験した。
- 活動9 夕食
炊飯支援者からの提供食
- 活動10 段ボール居住空間づくり
救援物資として届いた段ボールを活用し、簡易型の居住空間づくりを行った。
- 活動11 ドラム缶風呂
希望者によるドラム缶風呂体験。（他は自己管理水を使っての体拭き）
- 活動12 ライトアップ式
体育館内でライフライン復旧の瞬間を味わうためにライトアップ式を実施した。
- 活動13 坂本地区の過去災害
市役所坂本支所の職員を講師に招き、校区の過去災害の状況について学んだ。
- ③ 8月3日（日）
- 活動14 朝食
炊飯支援者が炊飯支援活動及び災害時の避難に関する物資づくりを行う。（炊飯支援、これは）
- 活動15 災害時に必要なもの
災害発生時に避難所へ避難する際に必要なものについて各自考え、グループで協議した。
- 活動16 危険予知トレーニング
豪雨等を想定した危険予知トレーニングを行った。

(2) 鹿本防災教育キャンプ 平成26年8月8日（金）～9日（土）

- ① 8月8日（金）
- 活動1 地震体験・給水体験
起震車による震度7を体験した。また、水道局の協力により一人6リットルの水を給水し、期間中の自己管理水とした。
- 活動2 着衣泳・救助法
地域ならではの想定災害である「冠水」の中で浮くことと助けることを体験的に学
- 活動3 非常持ち出し袋紹介
持参した非常食や防災用品について意見交換を行った。
- 活動4 夕食
持参した非常食を食した。
- ② 8月9日（土）
- 活動5 朝食づくり
支援物資が到着したことを想定し、避難所にある食材で朝食づくりを行う。
（カートンドック）
- 活動6 防災教室①②
土のうづくり（社会福祉協議会）、運搬術（消防）、豪雨体験（施設）等を体験し
- 活動7 昼食
昼食は、炊飯支援者が薪を使って調理を行う。（カレーライス）

4. 普及啓発の実施概要

(1) 鹿本防災教育キャンプ

- ① 日時 平成27年1月23日（金）15:00～16:00
- ② 会場 山鹿市立鹿本中学校
- ③ 内容 事業説明、参加者感想発表（生徒、地域住民、炊飯支援提供者、社会福祉協議会職員）、講評（運営委員）
- ④ 参加者（311名）
生徒253名、学校職員34名（近隣校舎）、青少年教育施設6名、地域住民8名、防災・消防関係者4名、社会福祉協議会3名、運営委員等3名

(2) 鹿本防災教育キャンプ

- ① 日時 平成27年1月29日（木）14:00～15:00
- ② 会場 八代市立坂本中学校
- ③ 内容 事業説明、参加者感想発表（生徒、保護者、地域住民、行政職員）、講評（運営委員）
- ④ 参加者（168名）
生徒58名、児童27名、学校職員16名（近隣校舎）、PTA42名（近隣校舎）青少年教育施設6名、地域住民4名、防災・消防関係者9名、社会福祉協議会2名、運営委員等4名

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- 「防災対応能力の基礎を培う」という目的を実現するためのプログラムを設定し、各活動の前にねらい等を参加者へしっかりと伝える時間を確保したことで、ねらいに沿った活動ができた。
- 避難所疑似体験、スポンジやベニア板を使った土砂災害発生装置のプログラム、地域行政から講師を招き校区の過去災害等を学んだことにより、災害メカニズムや地域の自然・防災環境について理解することができた。
- 薪を使った野外炊飯、災害時のロープワーク術、アイマスク体験、心肺蘇生法や運搬術、土のう作成術等の体験などにより、他の人々や集団地域の安全に役立つことを体感することで、「共助」することの大切さについて理解できた。
- 段ボールを活用した居住空間づくり、煙体験、起震車による震度7の地震体験、着衣泳等により、自らの安全を確保するために行動する「自助」することの大切さを実感することができた。
- 個人よりも複数人を単位としたグループ等を設定し、お互いに関わり合いながら活動を進めたことで「共助力」の向上へとつながった。
- 各プログラムで体験をした後に、個人やグループ及び全体で意見交流する時間を確保したことにより、個々の学びを全体で共有できた。このような「ふりかえること」の充実により防災に関する思考力を高めることができた。
- 炊飯支援者による食事提供、ドラム缶風呂の運営、地元消防団員による土のうを使った止水体験など地域人材の活用や関係者と連携したプログラムを提供したことにより、実際の避難所に近い状況で活動ができた。また、地域防災組織づくりのきっかけにもなった。
- 九州北部豪雨の際に救助にあたった講師の講話や八代市役所坂本分所職員の講義により、地域の災害の状況について理解することができ、災害をより身近なものとしてとらえることができた。
- 中学生による事業評価は、事務局やスタッフでは気づかないところまで把握することもあり、その意義や必要性を感じた。評価者の気づきを全体へ伝える機会も設定し、中学生の学び方を更に高めるきっかけとなった。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- △ 「ライフライン寸断から復旧」までの流れを3日間で設定したが、3日間を通した参加者確保が難しく、災害発生時から復旧までの疑似体験という観点では課題が残った。
- △ 「ふりかえり」での参加者による記述評価は、事業評価を図るうえで効果的であったが、量的に多くなり参加者への負担となった。評価したい場面を焦点化するなど評価場面や方法を工夫する必要がある。
- △ 両キャンプとも台風の影響を受け、鹿本会場は途中での事業中止となった。実際の災害の中での学びも多く得られたが、中止の判断基準や代替プログラムの計画など様々な状況を想定した事業運営が必要である。

(3) その他

- ・ 県立青少年施設では、全施設企画事業として防災教育キャンプを行っている。
- ・ 平成27年度も文科省の委託が可能であれば実施予定である。

6. 団体プロフィール

熊本県教育庁教育総務局社会教育課

〒862-8609

熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL 096-333-2697

FAX 096-387-0089



熊本県庁